（八日夕刊）
磐城新聞
休刊　大祭日　第一　第三日曜
定價　一部二錢　一ヶ月六十錢　郵税十五錢
廣告料　壹行六十錢　指定廿錢増
發行兼編輯印刷人　鹽沼龍輔
福島縣平町田町十六番地
發行所　磐城新聞社　電話五六四番

上級生に注意せよ
中、女學校の新入生へ

小學校時代は何といつても父母の膝が戀しい時代であり、また、學校と家庭との

聯絡　においても先生と生徒との關係においても、よく緊密な關係がたもたれてゐるから心配ないのですが、それが中學校、女學校となると年齡の上からもさうですが更に氣持の上から、父兄にしても、もう子供ではないといふ風に考へ、少年もまた幾分自由獨立といふ風な考へを持ち始める時代ですし、學校における師弟の關係も小學校時代のそれとも變つてまゐりますし、家庭と學校との聯絡も小學校と同樣な緊密さをたもたれませんから、いろ〳〵な點から、少年少女は非常な

危險　期にあることを忘れてはなりません、新しく入つた中學校、女學校において何を注意すべきかといふと第一にその學校内に不良のサークルに引入れられない注意ですが、これは元來不良少年等といふものは時代の尖端をゆくものであつてその巧妙なる誘惑手段、假面のかぶり方の如きなか〳〵見すかしのつかぬものですから、純な少年がその魔手にかゝるのはあながち無理ではないのです彼等不良少年の

手口　はいろ〳〵ありますが、もつとも恐るべきものは徐々に喰ひ入つてくるもので、最初は普通の上級生として甚だ親切であるといふのみですが、そして上級生が下級生に對して親切それはいづれの學校でも極力敎へるところですから、何の不思議もないのですが、もしこの親切が度を超えたものでありましたならば警戒しなければなり[illegible]ゐるとか、または飲食店へ連れて行つてたべるとかいふやうな

深入　りをした親切だつたらこれは何か魂膽かあるなと考へて殆ど間違ひありません、不良少年はかうしてはじめのうち純な少年の心を捉へ、徐々に自分のサークルへ引入れるのでそしてやがては方々へ連れ出され、その時の費用は常に支拂はされる、また家から絶へず何かを持出させるといふ風になるので、これは最もおそるべき事とす深入した上級生の親切は警戒せよといふことを子弟へ敎へて置くことが必要です、それから不良化する機會をつくるのには金の問題があります

小遣　ひを澤山もたせることの弊害は何人もよく御存じの筈ですが、ところが小遣ひをもたせなくとも少年は巧に小遣ひをつくるものです、それは誰れも上級生が敎へるのですが、例の學用品を買ふと稱して餘分の金をもらう手段ですだからこの弊を防ぐために學用品はなるべく品物で買つて與へること、やむを得ず金を渡した場合は必ずその品物をみせさせることを習慣にすべきです、次に辨當の問題です、これは理想から申しますと校內食堂がほしいのですがそれがないところでは往々にして校內外へ出て食事するものがあり、それがやがてはカフエーなどへ出入する導火線となりがちなものですから學校において特にその點を注意してほしいのですが一般家庭におきましても戒しめて

晝食　は校內でとらせるやう、そしてなるべく家庭からもつてゆかせるやうにすべきです最後に[illegible]のタカリですが、これは同じ學校の生徒に對しては行はれなくなりましたが、他校の生徒等が校門にまつてゐてあたらしい帽子、あたらしい校服の新入生とみると、これを脅迫するのですが、かうした硬派の不良少年は一眼見れば大概分りますから變なやつがゐると見たら道をさけて逃げるのが一番よく、また若しつかまつたらやむを得ませんから金を與へて、その場をのがれ、すぐ

學生　監なり警察なりへ屆出てほしいと思ひます、どこでどういふ風の少年に脅迫されたといふ事か密告さへすれば必ずつかまるのですからこの手續きは是非共とつていたゞきたいと思ひます。

❀……❀ 明日の吉凶 ❀……❀
舊暦三月十一日　新暦四月九日

一白の人　禍は我子より生ずること多し失物盜難注意▲二黒の人　注意せざれば親友と仲違を生ずることあり▲三碧の人　健實に撓みなく働くときは新氣運に▲べし▲四綠の人　付け元氣を出すときは却て失敗の因となる▲五黄の人　何事も我が意志に反することの多き注意日▲六白の人　金運あり目上の助けあり事業次第に發展す▲七赤の人　新しき使命を帯びて進出せらるゝ吉日たり▲八白の人　進み過ぐるときは安定を欠くことあり注意▲九紫の人　午前は吉なれども午後は苦情に逢ひ易き日

講談
幕末奇傑 高山彦九郎　(106)
中西伊之助作　布施長春畫

歸郷（六）

やがてまた彼等は、思ひ出したやうに歩みつゞけましたが、ともすれば三人の間は沈默に支配され勝ちでした

「眞弓どの、決して心置きなくれ止まり下されよ」

彦九郎はその間にも眞弓の心持ちを推しはかることを忘れずかういつては幾度も〳〵も慰め勵ましました

唯さへ他人の家に嫁には盲目の身を寄するといふことはどんなに氣づまりであるか知れないのに、こうした家の内情をきかされ、自分に好意をよせてゐてくれるたつた一人の彦九郎の立場がかう迄逆境にあるといふことは眞弓にとつて悲しむべき事實でした

「いつそ、彦九郎の好意を斷つてこのまゝ高山家へはいかずに引き返さうか」

斯うも考へては見ましたが、しかし今更彼女にどこに行かうところが有りませう。譬へ、民助がその老ひさらばけた体を櫻井の里に横たへてゐるからと云つてどうして明を失した自分がそこ迄辿りつくことが出來よう。さう思ふと折角の氣力も失せ果てて彦九郎には氣の毒だが、さうして又自分としてもどんなにか居にくいことか知れないが、このまゝ世話になるより他に仕方がないと、悲しくも諦らめねばならないのでした

「母上、父上」

母屋にはよらずに、彦九郎と眞弓をしたがへてそのまゝ隱居所に行くと、長藏はかういつて呼びかけました

「ひこ九郎が戻りましてムいますよ」

「ねゝ、彦九郎が」

耳の遠い[illegible]も祖母の[illegible]も同時[illegible]て參りました

「たゝ、戻りやつたかひの」

「祖母様！」

彦九郎は思はず呼びかけるゝ彗と固く祖母の手を握り締めました

「唯今、戻りましてムいます」

「おゝ〳〵、ょう無事で歸りやつた喃」

祖母は早涙聲で

「まあ、それにほんにそなたの大きうなつたこと……」

「たけもさうぢやが、ひこ九郎そなた學問もずんと大きうなつたらう喃」

祖父もさう云つて言葉をかけました

「はい、祖父様」

ひこ九郎は、その父の方に向き直つてにつこり笑つて云ひました

「憚り乍ら、ひこ九郎五ヶ年の學問は無駄にはなりませんでした」

「父上」

そのとき、長藏も言葉を挿みました

「ひこ九郎は丈よりも學問の方が延びたさうにムります」

「はゝ……丈よりも學問の方が延びたといふか。成る程それは尤もぢや」

祖父も喜ばしさうにさういつて笑ひました。

「ときに、お父さま」

ひこ九郎は眞弓のことに氣付いて改めて呼びかけました。

「ひこ九郎に願ひがムりますのですが」

「なに？願ひ？」

「いや」

そのとき長藏が言葉を挿みました

「眞弓どのゝ事ならば拙者お話[illegible]、その間ー井戸端へ行つて足でも洗つて來るがよ　眞弓の氣持を察して長藏はこう云つてひこ九郎を制しました

芳醇無比
白馬の雪
松本徳一吟醸
平電話七五二二

廣告
吉田眼科醫院

江戸前料理食堂
御試食なりましたか
一度おためし下さい……
錦水の　鳥料理　純日本料理
出前は迅速
錦水
平町田町末廣東隣
電話八〇三番

世は三行の春
花は松が岡
花の松ケ岡を一眼に見渡す公園向良善寺下に初音三盃合同賣店を設けました
座席無料　お一人様より百五十人様迄
演舞場も設けてあります
御用の御方は一日前電話にて御申付下さい
花見折詰、洋食、日本酒ユニオンビール、サイダー特價
松ケ岡公園向初音
良善寺下三盃合同賣店

内科診療
消化器病科　呼吸器科
小兒内科　一般内科
入院應需（自炊ノ便アリ）
平町鳳坂
渡邊内科醫院
電話一六一番

國産萬年筆の權威　五年間保險
其何レカハ必ズ何人ニモ的合スル製作上合理適ノ逸品ヲ推奨ス
◎學生用細字向　O型二、〇〇　T型二、五〇　以上各種
一御入學御進級ノ御祝トシテハ必ズ永久ニ喜バレル
平町字研町（公園前）
パイロツト高級萬年筆　大特約店
圖書雜誌學用品エハガキ
佐々木商店
電話二三三番

御料理
伊勢海老
本場
御獻立
ラプスターフライ
ラプスターバリージャン
ラプスターアメリカン
ラプスターテルミドル
其他ソセージ各種
平町田町
一の井
電一六七

平町田町
高久病院
電話五一〜三番
醫學士　高久忠
新潟醫學士　赤羽清
藥劑士　佐竹菊雄
内科小兒科
外科花柳病科
耳鼻咽喉科
レントゲン科

一圓十錢のフランス
マルソー會社元詰
生葡萄酒
マルソー、ブランク
マルソー、ルージ
優良にして安價賣行き飛ぶが如し
平二　西村屋藥舖　[illegible]　番

〇ツの石炭特色
日方の正確
〇ツの石炭は常に安く良くと言ふ事を信條として居ります
◎石炭は只單に一俵いくらと申しても目方が正確なければ眞に安いとは申されません
◎當店は目方の正確を期する爲めに
正味十貫目ヲ單位トシ一俵六十錢と定めました
品質の優良
〇ツの石炭は磐城炭礦、最上等の品で品質は常に一定して居ります大量生産ですからお安く賣る事が出來る強味を持つて居ります
〇ツの石炭が他の何處の品よりも高いと御思召す場合は御手數にても御知らせ下さい。御氣に召す樣に致しますから
電話二三七番へ
平驛前
阿部石炭商店

生花教授
家元龍生派池坊
生花、盛花、投入自然
營業では御座いませんから趣味で御相手致し度うございます
平町仲町三（電話五四一番）
華道教授
天水庵　岡田華悅

電話賣物あり
又は電話買ひます
御希望のお方は左記に御申込下さい
平町三丁目
文福堂書店
中世古清孝

内科、小兒科　市原卯太郎
外科一般、婦人科　市原陸郎
外科、梅毒、淋疾、皮膚病　市原三三男
平町田町本通
市原醫院
（入院隨時）
電話一一四番

◆内臓外科
◆外科一般
◆花柳病科
入院隨意　自炊の便あり
平町田町赤心堂病院跡
安齋外科醫院
電話四三六番

小名濱政友會の公友會發會式
來る十日磐城座に
鳩山砂田氏臨席

小名濱町有志が立憲政友會の主義政策遂行を主趣として結成した公友會の發會式はいよ／＼來る十日午後一時より同町劇場磐城座に於て開くことゝなつたが政友會本部よりは交渉中の鳩山一郎、砂田重政の兩氏來臨の筈で石城政友部會よりは木村部會長、鈴木幹事長其の他出席に決定したが公友會は會員の申込み既に九百餘名に達し除々たる勢力を有し同町千年の大計と町民の利益を事毎に粗害せんとするが如き行動に出でつゝある民政黨の別動隊たる同町昭和會と對抗し町民年來の希望念願たる商港並に平小鐵道の實現速達に努力する筈で發會式當日は盛會を豫想されてゐる

一般的に開放して自費患を優待
問貸し主義に代つた
豐間村の回春園

石城郡豐間村縣立回春園の昭和五年度に於ける豫算は縣財政の整理緊縮の大斧鉞に逢ひ九千圓を減じられて三萬九千圓であるがこれが爲め園長を餞退せしめて渡邊縣衞生課長が兼任することゝなつたが渡邊園長は削減された該豫算をもつて最も有意義に而も病める者のためにと就任以來同地に出張內部の刷新に腐心たの結果病室裝飾の一部改造を行ひ從來一室に患者六七人收容を三名と改善し患者の靜養に資すると共に天惠的同園を一般にも開放し一人でも多く收容すべく企劃し自費患者十五名を入園せしむることゝなつたが若しも自費患者が縣當局の豫想通り絕えずあるものとすれば計上された縣の豫算を更に減ずることも出來る譯で一般縣民の理解如何によつては縣の財源ともなり得る可能性が充分にあると

特別農事講習
十三日神谷分場で

神谷農試分場では來る十三日午前十時より午後三時まで同所に於て特別農事傳習會を開くことゝなつたが講師は技手菊地武雄氏にして『肥料の合理的配合に就て』であると

縣社の祭りに假裝行列
懸賞で募集

平町縣社子鍬倉神社の例祭は既報の如く來る十七、八日兩日執行されることとなつたが當日神社境內に大々神樂、芝居等の餘興ある外更らに櫻花時の人時を添ひる爲め懸賞つきの假裝行列を行ふことゝなつた、假裝行列は正午三十分迄に松ヶ岡公園安藤公銅像前に集合し午後一時出發審査の結果左の如き賞品を授與する事となつた

△一等金側懐中時計一名△二等置時計二名△三等置時計三名△四等ユラノスケ一升瓶五入△五等、等〃まで賞品授與

酌婦の詐欺
前借を踏んで逃走

平町字南町熊谷夏江方酌婦双葉郡大久村、高瀨妻今田せん(三五)は三月中前借二百五十圓で住み込んだものだが六日午前七時頃夫ゝ高瀨と共謀同午後四時頃現金三圓を窃取前借を踏倒し逃走した

殺された勝枝(三三)は言語に絕えた不孝者
一家存續の必要上殺害した
植田殺人事件の豫審決定書

植田町仁井田農下山田寅市(六二)次男下山田武(一九)の兩名が共謀の上寅市の長男にして武の兄なる勝枝(三三)を殺害した殺人並に死体遺棄事件は既報の如く愈々來る十六日午前九時より平支部に於て中島裁判長係り武田檢事立會、千葉、大嶺、安齋、松本の四辯護人列席の上開廷に決定したが同事件の內容を語る豫審終決定書を記せば左の如く當時の慘狀が彷彿として窺ふに足るものがある

豫審終結決定

本籍福島縣石城郡植田町仁井田字寺前六
農 下山田寅市 當六十二年
同所 下山田 武 當十九年

右兩名に對する殺人及び死体遺棄被告事件に付き豫審を遂げ終結決定すること左の如し

主 文

右被告兩名に對する被告事件中殺人事件を孰れも福島地方裁判所の公判に附し死体遺棄事件を孰れも福島地方裁判所平支部の公判に付す

理 由

第一、被告寅市は溫厚篤實一○業たる農事に精勵し耳順を超ゆるも孜々倦まず何等惡評なき老農にして被告武も亦た孝心深く僅かに七歲母トクに死別し中途にして義務教育を退き專ら家事に從ひ居れる者なるが之れに反し寅市の相續人にして武の兄たる勝枝當三十三年は大正五年八月十五日蛭田一政と爭論の末組打を爲し携帶せる短刀を以て一政の前額部を切付け全治七日を要する傷害を加へ同年九月十一日平區裁判所に於て傷害罪により罰金五十圓に處せられ次に大正十一年九月十五日自宅に於て渡邊田千畝に對し咽喉締めの方法を實施中不注意の爲め同人を即死せしめ大正十二年四月四日宮城控訴院に於て過失殺に依り罰金百圓に處せられたるものにして旅費を無心し放浪生活を爲し飄然無一物にて歸宅するを常とす、而して家庭に起居するや家事を手傳はず徒食し加え酒を嗜み酔ばちゝに對し惡口雜言の末或は蹴飛ばし或は出齒庖丁を以て追廻はす等其の不孝なること實に言語に絕す偶々昭和四年十月三十一日勝枝は自巳の娘が一周忌に當り居りとて自宅及び外出先にて飲酒し同夜十一時頃泥醉して歸り來り佛壇に向ひ亡妻の名を連呼し念佛を爲し居りしが突然納戶內に就寢中のちゝの枕邊に中腰となり木綿の手拭を捩り強く引きながら起きろ／＼絞め殺してやるぞと怒號するより寅市は平素より一家の存續上必要上同人を殺害するの外なしと竊かに其の機會を窺へ居りしに依り即時殺意を生じ『ヤッツケロ』と命じたるより武は之れを悟り直ちに同意し小緣側に在りたる薪割(證第一號)を取出し後方より勝枝の頭部を一擊したるに同人は俯伏に爐の方へ前倒れ鼻口より多量の出血を爲し人事不省となりしより死亡せるものと推認し寅市は繩を以て首上下肢を縛し武に背負はせ土藏內の桶に入れ置きたり然るに勝枝翌十一月一日午前三時頃自宅戶口に來り開けろ／＼と叫び起すより最早や死亡せしものと思ひし程の重傷を負はせたれば現在に於ては同人を殺さざれば自己を防衞する事能はざる程度の暴行は到底爲す能はざるべしとは思はれし若し右の重傷全治せば之を遺恨とし我が生命を斷つは疑ひなきを以て此の際寧ろ將來の禍根を除くに如かずと思惟し仕ふせ遣りかけたのだから遣つて仕舞へと告げ武も即時之に同意し其の手筈を爲し寅市が雨戶を開け勝枝が宅內に入るべく顏を差出すや持ち構へ居りし武は前示の薪割を以て同人の頭部を一擊したるより[illegible]傾向に倒れ再度の腦震盪に因り遂ひに死亡したり

第二、被告兩名は右犯跡を蔽はん爲め右死体を內庭に引入れ戶を締め首及び上下肢を緊縛しモッコにて土藏內に運び前示の桶に入れ置きたるが日を經るに從ひ異臭を放ち此の儘差置くこと能はざるより同月二十四日土藏の裏屋宅南隅より約七十六尺の箇所に約三坪の內を約二尺八寸堀下げ同日午後五時頃前示モッコにて運び緊縛せしまゝ右死体を埋め其の上に枯草及び茄子の枯莖等を散亂し以て之れを遺棄したるものなり

以上の事實は之を認むべき證憑十分にして公判に付するに足るべき犯罪の嫌疑あるものとす

法律に照らすに被告等の前示所爲中第一の所爲たる殺人の點は刑法第百九十九條第六十條に第二の所爲たる死体遺棄の點は同法第百九十條第六十條に各該當するところ右二罪は併合罪なるを以て之れを分離して審判すべきものなるに依り殺人の點のみに付き陪審法を適用し又た被告武は本件犯罪當時十六歲に超へ居るを以て十八歲未滿なれば少年法に則り處斷すべきものとし刑事訴訟法第三百十二條に從ひ主文の如く決定す

昭和五年二月廿四日
福島地方裁判所平支部
豫審判事 中谷爲吉

比佐氏祝賀會

四倉町の民政同志發起となり九日午後一時より同町公園に於て比佐代議士の祝賀會を開く筈

荒川町議に說諭願ひ
店子の捨吉が

平町七軒町齋藤捨吉(五二)は八日平署に出頭平町七軒町平町會議員荒川恒次郎氏に對し說諭願ひをなした其の理由は

捨吉は從來平町久保町に借家生活をしてゐたところ荒川氏は捨吉に對し俺れの貸家に引越せと度々言ふので失職してゐる捨吉は只今のところ家賃も滿足に拂へぬ」と云ふたところ家賃等は入らぬから留守居旁々入つて貰ひたいとの事に昭和三年一月荒川持家に移轉し昨今家賃の滯りが出來たところ荒川氏並に妻トク(五二)は口を極めて捨吉を罵り惡口雜言を吐いて信用を毀損して困るから說諭して貰ひたいと云ふにあると

電燈銅線を專問の賊
平署に捕はる

安積郡河內村生れ當時石城郡湯本町上町鈴木周太郎(三七)は去三月下旬同町淺貝地內山林にある東部電力會社電燈線約六十間を切斷逃走してゐたが七日夜平署員に逮捕され取調べの結果同樣手段で前後三回に亘る銅線泥を働へてゐた事發覺され餘罪取調中

町村豫算が減つて代用敎員大歡迎
玆にも算豫緊縮の矛盾
石城町村の苦心

石城郡下各町村は昨年來縣の緊縮豫算强要に禍され豫算の編成上自治の本質破壞する如き諸種の難關に當面し各町村とも非常な苦心を拂つてゐるが今回發表された敎員の整理異動に當つても可成りの矛盾が現はれ町村當局と縣との間に主張の一貫を缺く如き結果を見てゐる、即ち縣の發表した今回の敎員大異動の結果、准敎員、代用敎員によほど正敎員におきかへられ一二割かた減少した、ところがその後町村ではいづれもその財政關係から、代用敎員、准敎員の採用任命方を續々縣に申請するの結果に對し縣は豫算緊縮を强要してゐる關係上正敎員主義を一時緩和し出來るだけその要求を容れてゐるのでこの分では折角減少した代用敎員准敎員も、また／＼逆轉して增加するものと見られてゐる。從來町村ではいづれもできるだけ正敎員の配當を希望し代用敎員をきらつたものでこれは大事な子弟を託する父兄として當然のことだがそれが今年といふ今年は全然あべこべに、代用敎員を希望する町村のぞく／＼增加するに見ても町村財政極度の窮迫が察せられる

果して心中したか駈落ちの四人組
されど腑に落ちぬ
死体の行衛何處

石城郡湯本町三函本つたこと高萩佐久間方抱藝妓金太こと手塚あさ(二〇)同豆子こと佐藤うめ(一七)の兩名並に同町米穀雜貨商綠川辰三男正雄(二二)同文華堂書店松雄長男森茂(三三)の四名が去る一日家出行衛不明になつたことは既報の如くであるが右事件については茨城縣平潟海岸に於て自殺した如く裝ひ行衛を晦ましたものと見られてゐたが家出後七日を經過するも何等音沙汰なく平潟附近の驛から乘車した形跡もなく所持金もなかつた點等から見て事實馴染である金太と正雄、豆子と茂の四名は悲慘な心中を遂げたものと見られてゐる、これにつき本つた家女將は七日に至るも何の便りもないところから見ると或ひは心中したのでないかと思はれますと語つてゐた

小川高萩院の降誕祭
けふ盛大に執行

赤井村小川鄕の高萩院住職東谷鐵丸師は當代稀に見る淸廉の良師にして常に佛敎の民衆化を高唱し率先して釋尊降誕の花祭を意義有らしめん爲多年努力を拂ひ來りたるが本年は偶々大本山永平寺二祖孤雲禪師の六百五十回忌に相當せるを以て大本山にて御遠忌を執行せらる千載一遇の好機なれば是れを永遠に記念せんが爲め日本曹洞宗の開祖にして永平寺の御開山道元禪師を勸請することゝなりたるが數日前大本山より御尊像は御安着せられたれば今八日の花祭りを期し御尊像の開眼會を嚴修せられ午後よりは布敎傳道及餘興の薩摩琵琶等があり地方稀に見る盛況を呈した

一ケ年位はかゝる釜屋の財產調べ
相續稅は二十萬圓位
稅務署員大汗

本縣屈指の資產家平町諸橋久太郎氏は遂に六十七歲を一期とし長逝したが故諸橋氏は百萬長者とうたはれたゞけあつて不動產、動產の類は約二百萬と稱され或は三百萬と喧傳されてゐるが嗣子の守次氏は當然遲かれ早かれ遺產を相續することゝなるので平稅務署では相續稅の賦課方法についていよ／＼この百萬長者の資產狀態を調査することになつた、平稅務署では諸橋家の如き遺產相續は署始まつて以來のことゝて調查の日數は早くて一ケ年位と見てゐるが、假りに諸橋家の總財產を三百萬と見れば相續稅は驚く勿れ二十萬圓となるので若い署員連は目を白黑させてゐる

五十錢の訴

石城郡內鄕村宮月山嘉藏は去る二月二十四日同字飲食店佐久間フヨ方に登樓五十錢餘の遊興をなしたが今日に至るも遊興費を支拂はぬといふので五日平署に月山を相手取り告訴を提起したが五十錢の無錢飲食騷ぎなどは如何に不景氣であるかを雄辯に物語る一つであると署員は苦笑してゐた

佐藤氏後援
十二日平で開く

石城郡內有志から組織された佐藤庄太郎氏後援會は政治的に惠まれざる氏[illegible]して會員となつた者が旣に五百名の多きに達したので來る十二日午前十時から平町聚樂館に於いて後援會第一回總會を開き規約制定其他について協議を重ね終つて午後一時から平町松ヶ岡公園に於て會員の懇親會並に觀櫻會を催す由である

時言

一家存續の必要上、無賴の子を殺した六十二歲の老爺、法廷に立つ

□

敢て悲しむ勿れ、今大岡は亡くとも死んだら極樂へ行けるだろう

□

荒川(恒)町議へ、家賃の代りに說諭願ひ、圖々しい店子のツラも憎くいが大家ともあろうものの名譽でない

□

三〇年式尖端に躍り出した駈け落ち四人組、天に昇つたか地に潛つたか、先づ誰れよりも抱ひ主が目を白黑

初夏 サロンの新裝

四月十日ヨリ

樽詰生ビール並にタンク入ソーダ水の用意が出來ました

ソーダファンテン設備完成

カップ 一杯 十五錢
ジョッキ 一杯 五十錢

ドーゾ御散步がてら御來店を……

美味で評判の きもちよいサロン

平町田町 電話三五二番

雨傘と日ガサ

流行の最先端

一九三〇年のパラソル

散步がてら是非御覽下さい

ツルヤ

電話一四〇番

平町四丁目

息昌儀病氣療養中の處藥石効なく本日午前五時死去致候に付此段御通知に代へ廣告仕り候

追而來る九日午後一時より同二時まで平町良善寺に於て告別式相營み可申候

昭和五年四月七日

石城郡平町三丁目

父 山田勇太郎
親戚總代 佐藤榮之助
友人總代 千葉彥治

亡父一二葬送の際は御多忙中に拘らず態々御會葬被下成且つ過分の御香奠を賜り誠に有難く奉存候一々拜趨御禮申上可き筈なれども混雜中不取敢乍略儀紙上を以て御厚禮申上候

昭和五年四月八日

飯田近治
外親戚一同